

「渋谷区魅力ある公園整備計画」と個性豊かな公共トイレ

「成熟した国際都市」を目指す渋谷区では、未来像として「ちがいをちからに変える街。渋谷区」を基本構想に掲げ、さまざまな施策に取り組んでいます。その中から渋谷区に関わる人にとつて身近な存在の公園の整備計画と、世界的クリエイターが考えた新しい公共トイレを紹介します。

渋谷区立公園の未来を考える「渋谷区魅力ある公園整備計画」

渋谷区内に130カ所ある
公園を魅力的な場所に

渋谷区には現在130カ所の公園があり、それぞれが住民の憩いの場、災

フラとして一定の役割を果たしてきました。しかし多くの公園は1950年代の高度成長期に整備されたものです。渋谷区では、少子高齢化、ICT技術の進歩、価値観の多様化など、大きく変化する社会情勢に合わせて、公園も変えていく必要があると考えています。

この街には、区民だけではなく、こ
こで働く人、学ぶ人、渋谷が好きな人
など多様な人が集まります。限られた

敷地に遊具や緑地が整備されている現在の公園は画一的な場所となっており、渋谷区に集まる多様な人にとって、魅力的とはいえない場所となっているところもあります。

渋谷区は、平成28（2016）年に渋谷区の未来像を「ちがいをちからに変える街。渋谷区」とする「渋谷区基本構想」を定めました。この基本構想の実現を目指し、区内の公園を渋谷区に関わるすべての人に愛され、区民が誇りに感じられる魅力的な場所にするため、令和3（2021）年8月に「渋谷区魅力ある公園整備計画」を策定しました。

公園を3つに類型化し
それぞれの目標像を設定

渋谷区立公園の現状として、「小規模公園が多い」「あまり利用されていない公園がある」「利用者のニーズを満たせていない」「画一的な整備」「遊具の種類が乏しい」との課題が挙げられました。これらの課題を解決し、区立

民間活力導入の可能性の3つの指標から、「渋谷の顔となる公園」「エリアの顔となる公園」「地域の顔となる公園」の3つに類型化し、類型ごとに公園の目標像を設定し、整備の方向性を定め

ました。

まちのにぎわい創出を担う
「渋谷の顔となる公園」

の導入による質の高い空間整備や管理運営の可能性を検討しながら、渋谷区全体で「特色のある公園づくり」を行うことと同時に、多様な利用者の活動や憩いに活用される場となるような

充分な施設整備が可能な比較的面積の大きい公園のなかで、来街者が多く集まる場所や土地単価が高く民間活力導入の可能性を期待できる公園。公園面積、主要駅からのアクセス性と立地



エリアの集客性、土地単価で評価し、合計点の高い上位7公園を選定しました。

公園の目標像：渋谷カルチャーを発展させる公園・ライフスタイルの提案やクリエイティブな活動を後押しする公園・昼も夜もエンタテイメントや文化を発信する公園・まちのにぎわいの創出を担う公園・事業者の資金やノウハウを生かした施設整備や管理を行う公園・多くの来街者を惹きつけるような魅力的な景観整備やアクティビティの創出を図る公園

コミュニティ形成を推進する「エリアの顔となる公園」

「渋谷の顔となる公園」以外の公園のなかで、十分な施設整備が可能となる面積のある公園や地元住民が集まりやすい場所、土地単価が高く民間活力導入の可能性を期待できる公園。公園面積、一般駅からのアクセス性と連携が期待できる施設との近接性、土地単価で評価し、5つの地域ごとに合計点の高い公園から配置のバランスを踏まえて選定し、全部で12公園となりました。

公園の目標像：エリアのコミュニティ

形成を推進する公園・エリア主体の活動が活発に行われ、交流が生まれる公園・いつも誰かに会えるような場所となる公園・地域における文化交流につながる公園・子どもが自由に安心して外遊びができる公園・多様な子どもが遊べる公園・区民の安全な暮らしを守る公園

多様なニーズに応える特色のある「地域の顔となる公園」

「渋谷の顔となる公園」「エリアの顔となる公園」に選定した公園以外の公園。111公園あります。

公園の目標像：多様なニーズに応える特色を持った公園・利用者が目的に応じて選択できる公園・気軽に参加できる集いの場、楽しい時間が過ごせる居場所となる公園・子どもが自由に安心して外遊びができる公園・日々の健康づくりや運動、趣味ができる公園・区民の安全な暮らしを守る公園

アンケート調査や座談会で収集したアイデアをもとに魅力アップ案を作成

渋谷区では公園の利用者ニーズを把

握するため、渋谷区在住・在勤・在学者、主な公園利用者となる小学校の児童、保育園の先生、障がい者福祉施設の職員などを対象としたアンケート調査を行いました。アンケート調査では、子育てに適した学びの場・遊び場や緑や自然を楽しむ場、自由に使える広場、飲食ができる休憩の場、健康遊具等の運動ができる場、イベントが開催される場、衛生的なトイレやベンチ、植栽が充実していることなどが求められていることがわかりました。また多様な専門家や地域を代表する町会長と一緒に、区立公園を魅力的にするためのアイデアについて考える公園座談会を開催し、常識にとられないたくさんの方々のアイデアを出し合いました。

アンケート調査結果と公園座談会で収集したアイデアをもとに、イラスト入りの魅力アップ案「渋谷区公園MENU BOOK」を作成し、今後の個々の公園づくりにおける「話し合いの素材」として活用します。「渋谷区魅力ある公園整備計画」は長期にわたる事業となりますが、区民をはじめさまざまな方々と意見交換を行いながら、計画実現に向けて取り組んでまいります。



地域の顔となる公園



エリアの顔となる公園



渋谷の顔となる公園

◆世界で活躍するクリエイターが制作に参画した公共トイレ

渋谷区を舞台に展開する THE TOKYO TOILET プロジェクト

渋谷区は平成29（2017）年10月、公益財団法人日本財団と「ソーシャルイノベーションに関する包括連携協定」を結びました。この協定に基づき、社会課題解決につながる先駆的な取り組みを支援するとともに、渋谷区ならではの文化や芸術等の育成と世界への発信を目指しています。

トイレは日本が世界に誇る「おもてなし」文化の象徴ですが、多くの公共トイレが暗い、汚い、臭い、怖いといったイメージから利用者が限られている状態にあります。本プロジェクトではこのイメージを払拭すべく、誰もが快適に使用できる公共トイレを渋谷区内17カ所に設置します。トイレは温水洗浄便座、車椅子での利用、オストメイト用設備、利用者の性別を問わないユニバーサル・トイレを標準の仕様としています。

区内17カ所の公共トイレが 新しく生まれ変わる

トイレのデザインには、世界で活躍する16人の建築家やデザイナーなどのクリエイターが参画。優れたデザイン・クリエイティブの力で真に多様性を受け入れる社会のあり方を広く提案・発信します。

「公共トイレとは本来、どんな時にも、誰にでも、不安なく、快適に使ってもらえるものではないか」との主旨のもと、クリエイターがそれぞれに考えた安全で清潔な公共トイレが作られています。

区内17カ所で順次生まれ変わっていく公共トイレは、これまで見たことのないような個性豊かなトイレばかりです。現在13カ所が完成し、2022年度内にはすべてのトイレの設置を終える予定です



広尾東公園トイレ 広尾4- 2-27
後智仁（クリエイティブディレクター・アートディレクター）
Monumentum。多くの緑に囲まれた公園内にあるパブリックアートのようなトイレ。世界人口と同じ79億通りのライティングパターンが、昼は木漏れ日のように、夜は月明かりや漂う蛍のように変化し続けます。



代々木八幡公衆トイレ 代々木5- 1- 2
伊東豊雄（建築家）
Three Mushrooms。代々木八幡宮の森から生まれた3本のキノコのようなトイレ。個室型のトイレを3つに分散させることで回遊性を生み出し、行き止まりがなく視線が抜けることで防犯性を高めています。



鍋島松濤公園トイレ 松濤2-10- 7
隈研吾（建築家）
森のコミチ。緑豊かな松濤公園に集落のようなトイレの村をデザイン。ランダムな角度の耳付きの杉板ルーバーに覆われた5つの小屋は「森のコミチ」で結ばれ、それぞれの内装は多様なニーズに合わせて異なります。



神宮通公園トイレ 神宮前6-22- 8
安藤忠雄（建築家）
あまやどり。公共トイレという機能だけではない、都市施設としての意味、パブリックな価値を持つものでありたいとの考えから、円形平面の棟から屋根根庇が大きくせりだし造形になりました。

撮影：永禮賢、提供：日本財団
Photo: Satoshi Nagare, provided by The Nippon Foundation



七通り公園トイレ 幅ヶ谷2-53- 5
佐藤カズー (クリエイティブディレクター)
Hi Toilet (手を使わないトイレ)。海外の公共トイレの調査結果から発想。トイレにおける全ての行動を音で行うボイスコマンド式のトイレです。※手を使つてのドアの開閉や便器の操作も可能。



西原一丁目公園トイレ 西原1-29- 1
坂倉竹之助 (建築家)
ANDON TOILET。近寄りたが印象すらあった従前のトイレを、みんなが利用したいと思える明るく開放的なトイレに。行燈としてのトイレが公園を明るく照らし出すことで公園全体のイメージの改善を目指します。



はるのおがわコミュニティパークトイレ 代々木5-68- 1
坂 茂 (建築家)
ザ トウメイ トウキョウ トイレット。新しい技術で作られた鍵を締めると不透明になるガラスで外壁を作ることで、トイレに入る前に中の様子を確認できます。夜には美しい行燈のように公園を照らします。



恵比寿駅西口公衆トイレ 恵比寿南1- 5- 8
佐藤可士和 (クリエイティブディレクター)
WHITE。駅前交番横のトイレは極端に目立ちすぎない方がいいと考え、入りやすく、使いやすく一歩引いた清潔な佇まいに。トイレとして「当たり前な配慮」に向き合つてデザインした「真っ白なトイレ」です。



恵比寿東公園トイレ 恵比寿1- 2-16
横文彦 (建築家)
タコ公園のイカトイレ。単なるパブリックトイレとしてだけでなく、休憩所を備えた公園内のパビリオンとして機能する公共空間として考えた爽やかで、少しユーモアのあるデザインです。



代々木深町小公園トイレ 富ヶ谷1-54- 1
坂 茂 (建築家)
ザ トウメイ トウキョウ トイレット。「はるのおがわコミュニティパークトイレ」と同じ設計の透明トイレ。場所によってカラートーンを分けているのも特徴で、前者が寒色系、後者が暖色系になっています。



神宮前公衆トイレ 神宮前1- 3-14
NIGO® (ファッションデザイナー/クリエイティブディレクター)
THE HOUSE。コンセプトは温故知新。原宿の片隅にひっそりと建つ、古き良き一軒家をイメージ。世代によって、トイレを使われる方が懐かしくも感じ、新しくも感じていただけるようなデザインです。



恵比寿公園トイレ 恵比寿西1-19- 1
片山正通 (インテリアデザイナー)
建築的なものから距離を置き、遊具やベンチや樹木のように何気なく公園に佇むオブジェクトとしての在り方を念頭に、人々が不思議な遊具と戯れるようなユニークな関係性をデザインしました。



東三丁目公衆トイレ 東3-27- 1
田村奈穂 (プロダクトデザイナー)
TRIANGLE。国際都市渋谷にやってくるビジターへのもてなしの気持ちと、利用する人々を安全に包み込みたいという願いを込めて、日本の贈り物文化のシンボル「折形」からインスピレーションを得たデザインです。

THE TOKYO TOILETでは、プロジェクトの発足当初から、完成したトイレをきれいに使い続けることを大切に考えています。渋谷区の公共トイレは通常、1日1回水洗いとブラシがけを主とする「湿式清掃」を行いますが、このトイレは1日2〜3回、乾拭き中心の「乾式清掃」を実施。乾式清掃は漏電リスク、水漏れによる利用不快感軽減のメリットがあり、床、壁、便器などそれぞれの場所の汚れや材質に適した専用の除菌・消臭剤とダスターを使い、手作業での清掃を行います。

また、月に一度、トイレ診断士にトイレの健康診断を依頼。トイレ診断士は洗浄度や細かい部品の不備を確認し、その診断結果と日々の清掃業務の報告を基に月次協議会を開き、メンテナンスの向上を図っています。

きれいに使い続けるために
メンテナンスにも力を注ぐ

【施工中】

笹塚緑道公園トイレ
笹塚1-29- 7
小林純子 (建築家)
幅ヶ谷公衆トイレ
幅ヶ谷3-37- 8
マイルス・ペニンソン (研究者)
西参道公衆トイレ
代々木3-27- 1
藤本壮介 (建築家)
裏参道公衆トイレ
千駄ヶ谷4-28- 1
マーク・ニューソン
(インダストリアルデザイナー)